

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年8月16日(2012.8.16)

【公開番号】特開2011-105658(P2011-105658A)

【公開日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【年通号数】公開・登録公報2011-022

【出願番号】特願2009-263316(P2009-263316)

【国際特許分類】

C 07 C 67/333 (2006.01)

C 07 C 253/30 (2006.01)

C 07 C 255/57 (2006.01)

C 07 C 201/12 (2006.01)

C 07 C 205/56 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 67/333

C 07 C 253/30

C 07 C 255/57

C 07 C 201/12

C 07 C 205/56

C 07 B 61/00 300

【手続補正書】

【提出日】平成24年6月29日(2012.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

近年、ジフルオロメチレン基を有する化合物は特有の生物学的活性を持つことからその合成法が注目されている。これまで、カルボニル基、チオカルボニル基またはチオアセタール基にDAST(ジメチルアミノサルファトリフルオライド)を反応させてジフルオロメチレン基に変換する方法(DAST法)や、ハロジフルオロメチル基を脱ハロゲン化することによりジフルオロメチレン基にする方法(例えば熊懐法)もよく知られている(非特許文献1)。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、R¹は、限定はされないが、ヨードベンゼン環のオルト位及び/又はパラ位の炭素原子に結合している基であることが好ましい。ヨードベンゼン環に結合するR¹の数(m)は、1~3の整数であり、好ましくは1である。具体的には、ヨードベンゼン環のパラ位に-CN、-NO₂、-C(O)OC₂H₅、-COCH₃、-Br又は-Phが結合したもの、及びヨードベンゼン環のオルト位に-NO₂が結合したものが、好ましい様として挙げられる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

また上記原料化合物の混合及び反応は、例えば、窒素及びアルゴン等の不活性ガス雰囲気下で行なうことが好ましく、反応温度は、40～80であることが好ましく、混合時間（攪拌時間）は、5～20時間であることが好ましく、反応圧力は、常圧付近でよい。

本発明の製造方法においては、必要に応じ、反応を促進する目的で、グリニヤール反応で一般的に行なわれている各種の反応促進法を適用することもできる。そのような方法として、例えば、臭素またはヨウ素などのハロゲン、グリニヤール試薬、臭化エチル、ヨウ化メチル、ヨウ化メチレン、ヨウ化エチル及び-プロムエチルエチルエーテル等の有機ハロゲン化物、あるいはオルト珪酸エチル等を反応系に添加する方法や、攪拌又は超音波を照射する方法等を挙げることができる。